## 地元商店街のコンセンサス構築と全体計画の重要性を再認識

# 茨 木 商 工 会 議 所

| | | | |
|---|---|---|---|
| 機関名 | 茨木商工会議所 | | |
| 所在地 | 大阪府茨木市上中条１－９－２０ | | |
| 電話番号 | ０７２－６２２－６６３１ | | |
| 地域概要 | (1)管内人口　２６　万人 | (2)管内商店街数　２８　商店街 | |
| 事業の対象となる商店街の概要 | (1)商店街数　２　商店街 | (2)会員数　７２　商店 | |
| | (3)空店舗率　１１．１％ | (4)大型店空き店舗数　０　店 | |
| 商店街の類型 | 1.超広域型商店街　2.広域型商店街　3.地域型商店街　4.近隣型商店街 | | |

【事業名と実施年度】

平成 13 年度　　空き店舗対策事業　　チャレンジショップ
　　総事業費　　865 千円

【事業実施内容】

１．背景

近年、商店街の空き店舗が目立ち始めるとともに商店街の活気がなくなってきたため、商店街の活性化を図る目的で、チャレンジ精神に溢れた新規創業者に空き店舗を利用してもらうことで、商店街の活気を取り戻すとともに、創業支援に資することを目的とした。

茨木市位置図

２．事業内容

市内中心部の市場・商店街の中にある空き店舗を選び出し、商工会議所がその店舗を利用して、新規に創業しようとするチャレンジャーを募集・選定して入店を斡旋した。

入店者に対し、下記の補助を行った。

（１）家賃補助　　月額 10 万円を限度に 6 ヶ月
（２）改装費補助　　15 万円を限度

【　効　果　】

最終的には、チャレンジショップがＪＲ駅前のビル内商店街の１店舗だけとなった。結果的に空き店舗を埋めることはできたが、商店街への波及効果としては、成果といえるほどのものは出ていない。

茨城市中心部

【課題・反省点】

（１）事業実施にあたって、地元商店街とのコンセンサス不足のため、商店街での盛り上がりに欠けることとなった。
（２）空き店舗の所有者と賃貸条件を確認していたが、最終的に家主が賃貸物件の補修費の負担について難色を示し、ご破算となった。もう少し慎重に交渉を進めるべきだった。
（３）ＰＲについても、商工会議所会報と市報しか利用しなかったため、周知が足りなかった。

【　教　訓　】

（１）商店街活性化について、将来像をはっきりさせるとともに、全体のなかで個々の対策を詳細に計画しなければ、中途半端な形で終わってしまう。
（２）家賃補助のように、経費面で中期的(６ヶ月)に助成する場合は、補助金の交付決定時期を考えて、相当綿密な準備と仕掛かりをしておかなければ、スケジュール的にタイトになる恐れがある。

【関連ＵＲＬ】

茨木商工会議所　　http://www.ibaraki-cci.or.jp/